

岡山県金融経済動向

1. 概況

県内景気は、回復を続けている。

すなわち、企業収益が増加傾向を続け、景況感も良好な水準で推移する中、設備投資は堅調に推移している。輸出も海外経済の拡大を背景に増加している。また、個人消費は底堅く推移している。住宅投資も振れを伴いながら堅調に推移している。一方、公共投資は減少傾向にある。

県内主要製造業の生産活動は、堅調な内外需要を背景に緩やかな増加傾向にある。

雇用・所得環境をみると、労働需給が改善を続ける中で、雇用者所得は基調としては緩やかな増加傾向にあり、改善の動きが続いている。

2. 実体経済

(1) 個人消費

個人消費をみると、底堅く推移している。

すなわち、2月の販売動向をみると、百貨店売上高は、春物衣料に動意がみられたほか、身の回り品もバレンタインのギフト需要を中心に堅調に推移したことから、5か月振りに前年を上回った。家電販売も、パソコンは引き続き低調なものの、大型・薄型テレビが好調に推移したことから、2か月連続で前年を上回った。また、旅行取扱高は、国内旅行、海外旅行ともに団体旅行に動意がみられたほか、学生の卒業旅行が増えたため、全体では2か月連続で前年を上回った。

一方、スーパー売上高は、暖冬の影響から食料品が低調であったため、全体では6か月連続で前年を下回った。このほか、乗用車販売は、普通車が前年を上回ったものの、小型車の販売が低調に推移しているほか、軽自動車も前年に高伸した反動から前年割れとなったため、全体では3か月連続で前年を下回った。

この間、主要観光地への入り込みをみると、天候に恵まれたこともあって多くの施設で前年を上回った。

(2) 設備投資

県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、3月短観調査における18年度の設備投資計画をみると、製造業では、鉄鋼、化学（能力増強、維持・更新）、一般機械（拠点整備等）が増加するものの、石油・石炭製品、金属製品、輸送用機械を中心に前年の大型投資の反動が大きく、前年比減少の着地見込み（前年比 7.8%）。また、非製造業でも、小売、建設が前年を上回るものの、電気・ガス、運輸での前年の大型投資の反動に加え、卸売、リース等でも減少となることから、前年比減少の着地見込み（同 13.1%）。この結果、全産業ベースでは4年振りに減少での着地見込み（同 9.8%）。

前回調査（18/12月）と比較すると、製造業、非製造業ともに設備投資額は上方修正されている。

19年度の設備投資計画をみると、非製造業では小売、建設、リース等を中心に小幅の減少計画にある（前年比 0.8%）が、製造業では、化学（維持・更新、能力増強）、石油・石炭製品、木材・木製品（能力増強等）を中心に増加計画となっている（同+6.7%）。この結果、全産業ベースでは増加計画となっており（同+4.0%）、年度初時点での計画としては、ここ3年間で最も高い伸びとなっている。

月次の指標をみると、建設投資の先行指標である着工建築物床面積（非居住用）は、足もとは減少している（前年比：18/10～12月 24.1% 19/1～2月 13.9%）。

(3) 住宅投資

最近の県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、月々の振れを伴いながら堅調に推移している。2月は、持家、貸家がそれぞれ4か月振りに前年を上回ったほか、マンションも前年に落ち込んだ反動もあって高い伸びとなったことから、全体では4か月振りに前年を上回った（前年比：1月 2.2% 2月+29.4%）。

(4) 公共投資

公共投資は減少傾向にある。発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、2月は、大型工事によって「その他の公共的団体」で前年を上回ったほか、「国」、「独立行政法人等」、「県」、「市町村」でも発注額の少なかった前年の反動により前年を上回ったことなどから、全体でも前年を上回った（前年比：1月+73.7% 2月+155.1%）。

(5) 輸 出

輸出は海外経済の拡大を背景に増加している。

すなわち、2月の県内輸出（通関実績）をみると、アジア向けが化学、鉄鋼を中心に堅調なほか、北米、西欧、中東欧・ロシア向けも自動車（完成車）を中心に高い伸びを続けており、全体では14か月連続で前年を上回った（前年比：1月+39.3% 2月+25.2%）。

(6) 生産・出荷・在庫

19/1月の県内鉱工業生産指数（直近計数）は、輸送用機械、鉄鋼、一般機械を中心に上昇し、全体では4か月連続で前年比上昇した（前年比：18/12月+6.0% 19/1月+3.8%）。

季調済前月比では、電気機械、繊維で上昇したものの、前月に高い伸びとなった反動もあって、一般機械、化学などが落ち込んだため、全体では4か月振りに低下した（季調済前月比：18/12月+3.1% 19/1月 1.5%）。

この間、在庫指数は、輸送用機械、鉄鋼を中心に、8か月連続で前年を上回った（前年比：18/12月+7.0% 19/1月+5.0%）。

県内主要製造業の最近の生産動向（10業種、付表参照）をみると、造船、工作機械では、豊富な受注残を背景に高操業を継続している。自動車でも、国内向けが弱含んでいるものの、輸出向けの完成車が好調なことから、高操業を続けている。また、鉄鋼、石油精製、石油化学では、堅調な内外需要を背景に、高めの生産を続けている。電気機械では、電子部品を中心に、全体として高めの生産を続けている。このほか、耐火物では、大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。農機具でも低水準ながら、持ち直しの動きが続いている。また、繊維でも、国内需要の低迷や海外への生産シフト等から生産は低水準であるが、足もととは持ち直しの動きがみられる。

こうした中、造船、工作機械、自動車のうち繁忙度が高い一部の先では、残業等による生産対応を続けている。

(7) 雇用・所得

労働需給面では、19/1月の所定外労働時間は前年高伸の反動もあって前年を若干下回った（前年比：18/12月+9.0% 19/1月 0.6%）が、2月の有効求人倍率は、高水準を続けている（19/1月1.46倍 2月1.45倍）。雇用面をみると、常用労働者数は、退職等の増加から前年を若干下回った（前年比：18/12月+0.4% 19/1月 0.7%）ものの、解雇者数は低水準で推移しており、雇用保険受給者数は前年を下回って推移している。このように、総じてみれば県内の雇用関連指標は改善傾向にある。

賃金をみると、19/1月の一人当たり現金給与総額は、前年を上回った(前年比：18/12月+1.8% 19/1月+1.0%)。

この結果、雇用者所得は緩やかな増加傾向にある。

(8) 物 価

2月の岡山市消費者物価指数(平成17年基準、生鮮食品を除くベース)をみると、家具・家事用品、生鮮食品を除く食料等が前年を上回っているが、交通・通信、教養娯楽などが前年を下回っているため、全体では前年並みとなった(前年比：1月+0.3% 2月0.0%)。

(9) 企業倒産

2月の県内企業倒産(東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(10件<前年7件>)は前年を上回ったものの、負債総額(13億円<同21億円>)は前年を下回った。

3. 金 融

(1) 実質預金

2月の県内実質預金をみると、個人預金が、預かり資産へのシフトが続く中で前年比伸び率が小幅ながら上昇したほか、公金預金も前年比プラス幅が若干拡大した。また、法人預金の前年比マイナス幅も縮小したため、実質預金全体では、10か月振りに前年比プラスに転じた(月中平残前年比：1月0.2% 2月+0.3%)。

(2) 貸 出

2月の県内貸出をみると、地公体向けの前年比伸び率が鈍化した一方、企業向けでは運転資金の前年比マイナス幅が縮小したほか、個人向けも住宅ローンが引き続き堅調に推移しているため、ともに前年比プラス幅が若干拡大した。この結果、貸出全体の伸び率は前年比プラス幅が若干拡大した(月中平残前年比：1月+0.8% 2月+1.0%)。

(3) 貸出約定平均金利

2月の新規貸出約定平均金利(総合ベース)は、2か月連続して前月比低下した。一方、ストック金利(同)は11か月連続で上昇した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707

岡山市丸の内1 - 6 - 1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086 - 227 - 5111 (代表)

FAX 086 - 227 - 6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

主要製造業の生産動向

業 種	足 も と の 動 向
自動車	高操業が続いている。 国内向け生産は、小型車が一部車種の他工場への生産移管により減少しているほか、軽自動車も、他社向け供給の効果は継続しているものの、一部車種の販売台数減少等から生産水準の低下が続いている。輸出向け生産は、完成車がロシア、中東向けを中心に堅調なほか、欧州・北米向けも新型車投入等から高操業を続けている。また、KDも新車投入によって、持ち直している。 この間、生産ラインでは、残業、休日出勤による生産対応を続けている。
造船	高操業が続いている。 大手先の造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンのほか、産業機械向け受注も堅調なことから、高操業を続けている。 この間、生産現場では、残業による生産対応を続けている。
石油精製	暖冬の影響等から一部製品で需要が弱含んでいるものの、全体としては高めの生産を続けている。 製品別にみると、ナフサは、石化メーカー向けが堅調に推移していることから、高めの生産となっている。ガソリンは、需要がやや弱含んでいることもあって生産水準がやや低下している。軽油は、需要は底堅く、高めの生産水準にある。また、灯油は、暖冬の影響から需要が落ち込んでおり、生産水準が引き下げられている。重油は、足もとは供給減から海外市況は若干持ち直しているが、基調として需要は低調に推移しており、生産も減少傾向にある。
石油化学	堅調な内外需要を背景に、全体として高めの生産を続けている。 基礎原料のエチレンは、末端樹脂需要が堅調に推移する中、高めの生産を継続している。製品別にみると、ポリエチレンは、一部製品では市況が軟化しているものの、プラスチックメーカー、自動車部品・家電製品向けを中心に需要は全体として堅調に推移しており、定期修理に備えた積み増しもあって高めの生産となっている。塩ビ樹脂は、建設向けが堅調で、定期修理も控えているため、高めの生産を継続している。ポリスチレンは、需要が弱含むなか、定期修理等に伴い生産量は低下している。
鉄 鋼	粗鋼生産量は、堅調な内外需要を背景に高水準にある。 製品別にみると、薄板類は、自動車・家電メーカー向けの高付加価値品が好調なことから、全体としては高めの生産水準となっている。厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。形鋼類は、民間建設向け需要が堅調なことから、高めの生産水準にある。棒鋼類は、自動車向けが好調に推移しているほか、建設向けも堅調に推移しており、定期修理の終了に伴って生産量は持ち直している。
耐火物	大手メーカーを中心に緩やかに持ち直している。 大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が増加しているため、緩やかに持ち直している。
電気機械	全体として高めの生産を続けている。 製品別にみると、電子部品は、液晶関連向け、携帯電話向けを中心に受注が増加傾向にあることから、高めの生産を続けている。スイッチは、携帯電話向けを中心に、高操業を続けている。デジタルビデオカメラは、春の需要期に向けて、新製品を中心に足もとの生産が持ち直している。各種制御機器は、生産移管の影響等から生産は減少している。
織 維	全体として生産は低水準ながら、持ち直しの動きがみられる。 製品別にみると、綿織物、合繊織物は、安価輸入品との競合等から、生産は低水準ながら、事務服向け等を中心に末端需要に動意がみられており、生産量も持ち直している。また、ジーンズ、作業服は、高付加価値製品の一部に持ち直しの動きがみられるが、海外生産シフトの影響などから、低水準の生産が続いている。学生服は、需要期に向けて、生産量が持ち直している。
工作機械	高操業が続いている。 NC旋盤は、自動車関連メーカー向けを中心に高めの受注残を抱えており、高操業を続けている。また、MC(マシニングセンター)も、自動車関連、一般機械メーカー向けを中心に、高操業を続けている。 こうした状況下、生産現場では、残業、休日出勤による生産対応が続いている。
農 機 具	全体として生産は低水準ながら、持ち直しの動きが続いている。 製品別にみると、コンバインは、端境期にあるため、他の農機具に生産をシフトしており、低水準の生産が続いている。携帯用刈払機は、欧州向けを中心とした海外需要が堅調に推移しており、生産量も持ち直している。